３６．北陸道（ほくりくどう）－木ノ芽峠（きのめとうげ）越・湯尾峠（ゆのおとうげ）越

選定箇所：木ノ芽峠（福井県敦賀市・南越前町）～湯尾峠（南越前町）

概要：北陸道とは、京を発し近江から越前を経て越後に至る古代からの官道であり、江戸時代に結城秀康が整備し、さらに重要性を高めた。　「歴史の道百選」として選定されたのは、木ノ芽峠越と湯尾峠越の２か所である。

木ノ芽峠は、畿内から北陸へ入る関門であり、峠両側の急坂には一部石畳を残している。源平合戦時には木曽義仲や平維盛（これもり）が、鎌倉時代には親鸞や道元が、南北朝時代には新田義貞がこの峠を行き来した。湯尾峠は、源平合戦時には平家軍の進攻を迎えて木曽義仲が陣をとった所といわれており、古くから交通・軍事上の要地であった。

木ノ芽峠